

2020年度 授業計画（シラバス）

授業科目	看護学概論	分野	専門分野 I	単位数	1	時間数	30	開講	前期
科目目標	看護の概念、看護の機能と役割を理解する。								
回	主題	授業内容			授業方法	担当教員（講師）			
1	私の考える看護	自分の考える看護の概念の明確化			講義	本校教員			
2	看護の本質	看護の定義 役割と機能 職業・学問としての看護 看護の変遷			講義 グループワーク				
3									
4	看護職の資格と養成にかかわる制度	保健師助産師看護師法 看護基礎教育と養成制度			講義				
5	看護の対象	人間とはどのような存在か 事例から人間の「こころ」と 「からだ」について考える こころの理解に役立つ理論			講義 グループワーク				
6									
7									
8	健康と生活	健康のとらえ方 健康でない状態と障害 国民のライフサイクルから 健康と生活を考える			講義 グループワーク				
9									
10	環境と人間	環境の変化とホメオスタシス 環境の変化とコーピング			講義				
11	看護における倫理	患者の権利と擁護 看護者の倫理綱領			講義 グループワーク				
12									
13	看護であること、看護でないこと	フロレンス・ナイチンゲール 「看護覚え書」から学ぶ			講義				
14	看護とはなにかについて考える	「私の考える看護」を表現する			演習				
15	定期試験(90分)								
教科書、参考書等		系統看護学講座 看護学概論, 医学書院, 2020. 看護覚え書, 現代社. よくわかる看護者の倫理綱領, 照林社, 2020.							
評価方法		定期試験（85%）、課題レポート（15%）により総合的に評価する。							
履修上の注意点		この科目は看護学を学ぶ出発地点ですので、「看護とはなにか」を考えるための資料を多様な側面から提供します。また、事例検討・グループワークを取り入れますので、各自が情報を整理し、発言し、傾聴し、情報共有し、発表するというトータルな学び方に積極的に参加しましょう。							

2020年度 授業計画（シラバス）

授業科目	看護理論	分野	専門分野 I	単位数	1	時間数	15	開講	前期
科目目標	看護実践のための理論的根拠としての看護理論を学ぶ。								
回	主題	授業内容			授業方法		担当教員（講師）		
1	看護理論の発展	看護の本質と看護理論の関係			講義		本校教員		
2		看護理論の種類			講義				
3	看護理論の発展に貢献した理論家	V. ヘンダーソン E. ペプロウ D. E. オレム C. ロイ			講義 個人・グループワーク				
4									
5	臨床に役立つ看護理論	1. ニード論（ヘンダーソン） 2. 人間関係論（ペプロウ） 3. セルフケア理論（オレム） 4. システム理論（ロイ）			講義 演習				
6									
7	臨床に役立つ看護理論	事例で学ぶ看護理論			講義 グループワーク				
8	定期試験(60分)								
教科書、参考書等		やさしく学ぶ看護理論, 日総研, 第4版. 系統看護学講座 看護学概論, 医学書院, 2020.							
評価方法		定期試験（85%）、課題レポート（10%）、授業中の発言（5%）により総合的に評価する。							
履修上の注意点		各理論家が本の中で提唱している「看護の見方・考え方」を学び、看護実践への活用方法を理解する。また、臨床での活用事例を紹介するので、自らの看護実践に役立てる。							

2020年度 授業計画（シラバス）

授業科目	フィジカルアセスメント技術	分野	専門分野 I	単位数	1	時間数	30	開講	前期
科目目標	呼吸、循環、体温の測定技術を習得し、呼吸器系・循環器系のアセスメント方法を学ぶ。								
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）		
1	フィジカルアセスメントとは何か	ヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントとは フィジカルイグザミネーションとは フィジカルアセスメントの基本的な方法と進め方 バイタルサインとは				講義	本校教員		
2		呼吸とは 呼吸調節のメカニズム 呼吸の正常と異常				講義			
3	呼吸系のフィジカルイグザミネーション	呼吸音を聴取する （正常・異常音の種類と特徴） 呼吸の測定方法				校内実習			
4		呼吸の測定法 呼吸音の聴取				校内実習			
5	循環器系のフィジカルイグザミネーション	脈を触知する 脈拍を測定する （脈拍数とリズムの異常・正常）				校内実習			
6		心音を聴取する I音とII音の発生のメカニズム 心音の正常・異常				講義 校内実習			
7		血圧とは 血圧に影響する因子 血圧値の分類、基準値 コロトコフ音の変化 血圧測定の方法（触診法と聴診法）				講義			
8		血圧測定（触診法と聴診法） 心音を聴取する				講義 校内実習			
9	消化器系のフィジカルイグザミネーション	腹部の区分 腸蠕動運動				講義			
10	筋・骨格筋系、神経系、感覚系のフィジカルイグザミネーション	関節可動域、徒手筋力測定 意識障害の程度の評価 視覚のスクリーニング 聴覚のスクリーニング				講義			
11	体温とその調節のしくみ	体温とは 体温の調節のしくみ 体温の測定部位と特徴 体温の測定方法				講義 校内実習			
12	バイタルサイン測定	バイタルサイン測定 一連の測定				校内実習			
13		体温・脈拍・呼吸・血圧測定				校内実習			
14		呼吸音の聴取							
15	定期試験（90分）								
16	実技試験	体温・脈拍・呼吸・血圧測定 呼吸音の聴取							
教科書、参考書等		系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2020. 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2020. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院, 2019.							
評価方法		定期試験、実技試験、課題レポートにより総合的に評価する。							
履修上の注意点		レポート課題は、期日内に提出すること。期日内に提出されなければ、評価対象とはならない。 講義聴講や教科書の範囲に留まることなく参考書など積極的な学習の取り組みを望む。							

2020年度 授業計画（シラバス）

授業科目	安楽援助技術	分野	専門分野 I	単位数	1	時間数	30	開講	前期
科目目標	療養環境を整え安楽に過ごすための基本技術を習得する。								
回	主題	授業内容			授業方法		担当教員（講師）		
1	安楽な姿勢と体位の保持	よい姿勢 ボディメカニクス 体位 体位保持（ポジショニング）			講義 グループワーク		本校教員		
2									
3	環境調整技術	療養生活の環境 病室の環境のアセスメントと調整 ベッド周囲の環境整備 ベッドメイキング			講義 グループワーク 校内実習				
4									
5									
6									
7	移動の援助	体位変換 歩行 移動・移送			講義 グループワーク 校内実習				
8									
9	睡眠・休息の援助	睡眠の種類 睡眠制御のメカニズム 睡眠障害のアセスメント 睡眠・休息の援助			講義 グループワーク				
10									
11	コミュニケーション	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と 成立過程 関係構築のためのコミュニケーション の基本			講義 グループワーク				
12									
13									
14									
15	定期試験(90分)								
16	実技試験	ベッドメイキング					本校教員		
15	実技試験	ベッドから車椅子への移動							
教科書、参考書等		基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②, 医学書院, 2020. 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③, 医学書院, 2020. 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術. 医学書院, 2019.							
評価方法		定期試験、実技試験、課題レポートにより総合的に評価する。							
履修上の注意点		定期試験、実技試験、課題レポートにより総合的に評価する。							
		講義・グループワークに参加し、決められた期日内にレポートを提出すること。（期日内にレポートが提出されなければ、評価対象とはならない。）							

2020年度 授業計画 (シラバス)

授業科目	内部環境調整技術 I	分野	専門分野 I	単位数	1	時間数	30	開講	通年
科目目標	食と排泄機能を整え身体的、心理的に良好な状態に整えるための基本技術を習得する。								
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員 (講師)		
1	食事・栄養の意義	1) 生理的意義 2) 社会的意義 3) 心理的意義				講義	本校教員		
2	食事摂取と栄養吸収のメカニズム	1) 食事を口まで運ぶ 2) 咀嚼 3) 嚥下 4) 吸収				講義			
3	食事摂取と栄養吸収のメカニズム	1) 食事を口まで運ぶ 2) 咀嚼 3) 嚥下 4) 吸収				講義			
4	咀嚼・嚥下障害と援助	1) 咀嚼の体験 2) 嚥下の体験 3) 臨床患者の食事介助				校内実習			
5	経管栄養の援助	1) 経管栄養 2) 経鼻胃管と胃瘻 3) 経鼻胃管の挿入 4) 経管栄養の注入方法				講義			
6	快く排泄する	1) 排泄の意義 2) 自立した排泄行動 3) 排泄に支障をきたすことによる心身の変化 4) 入院に伴う排泄への影響				講義	本校教員		
7	トイレに行く	1) 排泄 (排尿・排便) のメカニズム 2) 排泄行動とは				講義			
8	排泄援助のアセスメント	1) 排泄行動に影響を与える因子 2) 排泄援助の必要性を判断する視点				講義			
9	排泄援助の選択と方法	1) トイレ介助 2) ポータブルトイレ 3) 床上排泄 (尿器・便器)				講義			
10	排尿・排便困難時の援助	1) 一時的導尿の適応と方法 (女性・男性の一時的導尿) 2) 持続的導尿の適応と方法				講義			
11	排尿困難時の援助	1) 導尿の方法と実際 ・デモンストレーション ・女性の導尿の実際				校内実習			
12	排尿困難時の援助	1) 導尿の方法と実際 ・女性の導尿の実際				校内実習			
13	自然排泄を促す	対象に応じた排泄援助のアセスメント 1) 腸蠕動音の聴取 2) 腹部マッサージ 3) 温罨法				校内実習			
14	排便困難時の援助	1) 浣腸の方法と実際 ・デモンストレーション ・浣腸の実際				校内実習			
15	定期試験 (90分)								
教科書、参考書等		系統看護学講座 基礎看護技術 I, 医学書院, 2020. 系統看護学講座 基礎看護技術 II, 医学書院, 2020. 根拠と事故防止からみた基礎看護技術, 医学書院, 2019. 看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント, 学研メディカル秀潤社, 2020.							
評価方法		筆記試験、レポート等を統合して行う。							
履修上の注意点									

2020年度 授業計画（シラバス）

授業科目	内部環境調整技術Ⅱ	分野	専門分野Ⅰ	単位数	1単位	時間数	30時間	開講		後期	
科目目標	皮膚・粘膜・呼吸の状態を整え、恒常性を維持するために必要な基本的な技術を習得する。										
回	主題	授業内容				授業方法	担当教員（講師）				
1	浮腫・脱水 酸塩基平衡	体液の恒常性				講義	本校教員				
2		浮腫・脱水のアセスメントと援助									
3		アシドーシス・アルカローシス									
4	呼吸を楽にするための 援助	酸素療法				講義 校内実習	本校教員				
5		吸引									
6	身体を清潔にする意義	身体を清潔にする意義 皮膚・粘膜の生理機能				講義	本校教員				
7	口腔内の清潔	臥床患者の歯磨き方法 臥床患者の含嗽				講義 校内実習					
8	部分浴	手浴 足浴 温湯の効果とバイタルサインの変動				講義 校内実習					
9	洗髪	ケリーパッドを用いた洗髪				講義 校内実習					
10	全身清拭	気持ちよくきれいになる全身清拭 臥床患者の寝衣交換（和式寝衣）				講義 校内実習	本校教員				
11											
12											
13											
14	陰部洗浄	臥床患者の陰部洗浄				講義 校内実習	本校教員				
15	定期試験(90分)						本校教員				
16	実技試験	全身清拭・寝衣交換					本校教員				
教科書、参考書等		系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2020. 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2020. 根拠と事故防止からみた基礎看護技術, 医学書院, 2019. 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, 学研メディカル秀潤社, 2020.									
評価方法		定期試験、課題レポートにより総合的に評価する。									
履修上の注意点											

2020年度 授業計画（シラバス）

授業科目	診療補助技術Ⅰ	分野	専門分野Ⅰ	単位数	1単位	時間数	30時間	開講		通年					
科目目標	感染予防と検査に伴う基本技術を習得する。														
回	主題	授業内容			授業方法	担当教員（講師）									
1	医療における安全	医療事故を考える リスクマネジメント 患者の安全と看護師の責任			講義	本校教員									
2	感染の概念	感染と感染症 感染経路 感染防御機能			講義	本校教員									
3	感染防御	スタンダードプリコーション 感染経路別予防策			講義										
4	感染防御技術	衛生的な手洗い スタンダードプリコーションの実施			講義 校内実習										
5	無菌操作	清潔と不潔 消毒と滅菌 無菌操作			講義 校内実習										
6															
7	検査の意義	検査の意義 診察・検査を受ける患者の心理 検査における看護師の役割			講義	本校教員									
8	検査の種類	検査の種類			講義										
9	身体計測	身体計測の意義・目的 身体計測の留意点 身体計測の実際			講義 校内実習										
10	検体検査	検体の採取方法 検査値の見方			講義										
11	生体検査	生体検査時の援助方法			講義										
12	静脈血採血	静脈血採血の実際			講義 校内実習										
13															
14	穿刺検査	穿刺検査時の援助方法			講義 校内実習										
15	定期試験(90分)										本校教員				
教科書、参考書等		系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2020. 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2020. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院, 2019.													
評価方法		定期試験、課題レポートにより総合的に評価する。													
履修上の注意点		技術試験前には、各自練習を行うこと。													

2020年度 授業計画（シラバス）

授業科目	診療補助技術Ⅱ	分野	専門分野Ⅰ	単位数	1単位	時間数	30時間	開講		後期
科目目標	与薬に必要な基本技術を習得する。									
回	主題	授業内容			授業方法	担当教員（講師）				
1	薬物療法と看護	与薬における看護師の役割 与薬方法と効果の観察			講義	本校教員				
2	内用薬の与薬	種類と特徴 与薬方法 処方箋の取扱い			講義					
3	外用薬の与薬	種類と特徴 与薬方法			講義					
4	注射法の基礎知識	注射の種類と特徴			講義					
5		注射器の取り扱い 注射実施の過程 注射実施に関わる法的責任			講義					
6	輸液・輸血の管理	種類と取扱い方法 輸液・輸血の管理方法 副作用（有害事象）の観察			講義					
7	安全な注射の実施	注射実施の過程 注射実施に関わる法的責任			講義 校内実習					
8		安全な注射部位 注射実施の援助方法								
9		①皮内注射・皮下注射								
10		②静脈内注射 ③筋肉内注射								
11	点滴静脈内注射	目的と吸収機序 適した注射部位 用いられる輸液剤と注射針の種類			講義 校内実習					
12		輸液セットの準備 輸液速度の調整								
13		点滴静脈内注射施行中の寝衣交換								
14	中心静脈栄養法	適応と特徴 中心静脈栄養法施行中の管理			講義					
15	定期試験(90分)									
16	実技試験	静脈内注射								
教科書、参考書等	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2020. 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2020. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院, 2019.									
評価方法	定期試験、実技試験、課題レポートにより総合的に評価する。									
履修上の注意点	レポート課題は、提出期限厳守とする。									

2020年度 授業計画（シラバス）

授業科目	看護過程	分野	専門分野 I	単位数	1単位	時間数	30時間	開講	後期
科目目標	看護診断プロセスを用いた看護過程を理解する。								
回	主題	授業内容			授業方法	担当教員（講師）			
1	看護過程とは	看護過程とは何か 看護過程の目的 看護過程の構成要素			講義	本校教員			
2	問題解決型思考とは	看護過程と問題解決方法（POS）との関係			講義				
3	看護過程の構成要素	アセスメント・計画・実施・評価			講義				
4	看護診断とは	看護診断とは 看護診断過程			講義				
5	看護診断過程を用いた 看護過程の実際	アセスメント 診断 看護計画 実施 評価			講義・演習				
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15	定期試験(90分)								
教科書、参考書等		系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2020. 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2020. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院, 2019. NANDA-I 看護診断-定義と分類 原書第11版, 2018-2020, 医学書院, 2019. 看護過程に沿った対症看護, 病態生理と看護のポイント, 学研メディカ秀潤社, 2020.							
評価方法		定期試験、課題レポート、看護過程の記録類により総合的に評価する。							
履修上の注意点		レポート課題は、期日内に提出すること。（期日内に提出されなければ、評価対象とはならない。） 講義聴講や教科書の範囲に留まることなく参考書など積極的な学習の取り組みを望む。							

2020年度 授業計画（シラバス）

授業科目	対症看護	分野	専門分野 I	単位数	1単位	時間数	30時間	開講	後期
科目目標	臨床で遭遇する主要な症状に対する基本的な看護を習得する。								
回	主題	授業内容			授業方法	担当教員（講師）			
1	臨床看護	1) 臨床看護の目的・対象 2) 対症看護とは			講義	本校教員			
2	発熱患者の アセスメント	1) 体温について 2) 発熱・解熱の定義 3) 発熱・解熱のメカニズム 4) 発熱の成り行き 5) 発熱・解熱のアセスメント			講義				
3	発熱時の看護	1) 発熱患者の観察ポイント 2) 発熱患者の援助・評価について			講義				
4	電法	温電法・冷電法の実際			校内実習				
5	電法	温電法・冷電法の実際			校内実習				
6	悪心・嘔吐患者の アセスメント	1) 悪心・嘔吐の定義 2) 悪心・嘔吐のメカニズム 3) 悪心・嘔吐の成り行き 4) 悪心・嘔吐アセスメント			講義	本校教員			
7	悪心・嘔吐時の 看護	1) 悪心・嘔吐患者の観察ポイント 2) 悪心・嘔吐時の援助・評価について 3) 嘔吐時の体位、胃部冷電法			講義				
8	吐血・下血患者の アセスメント・看護	1) 吐血・下血の定義 2) 吐血・下血のメカニズム 3) 吐血・下血のアセスメント 3) 吐血・下血の観察ポイント 4) 吐血・下血の援助・評価について			講義				
9	咯血患者の アセスメント・看護	1) 咯血の定義 2) 咯血のメカニズム 3) 咯血のアセスメント 3) 咯血の観察ポイント 4) 咯血の援助・評価について			講義				
10	かゆみのある患者の アセスメント・看護	1) かゆみの定義 2) かゆみのメカニズム 3) かゆみのアセスメント 3) かゆみの観察ポイント 4) かゆみの援助・評価について			講義				
11	疼痛のある患者 アセスメント	1) 疼痛の定義と種類(頭痛/胸痛/腹痛) 2) 疼痛のメカニズム 3) 疼痛の成り行き 4) 疼痛スケール			講義				
12	頭痛時の看護	1) 頭痛のメカニズム 2) 頭痛患者の観察ポイント 3) 頭痛患者の援助・評価について			講義				
13	胸痛時の看護	1) 胸痛のメカニズム 2) 胸痛患者の観察ポイント 3) 胸痛患者の援助・評価について			講義				
14	腹痛時の看護	1) 腹痛のメカニズム 2) 腹痛患者の観察ポイント 3) 腹痛患者の援助・評価について			講義				
15	定期試験(90分)								
教科書、参考書等		系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2020. 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2020. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院, 2019. 看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント, 学研メディカル秀潤社, 2020.							
評価方法		筆記試験、レポート等を統合して行う。							
履修上の注意点		講義・グループワーク・発表に参加し、決められた期日以内にレポートを提出。 (期日以内にレポートが提出されなければ、評価対象とはならない。)							